

「幼虫、ちっちゃ！(6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

孵化して間もない、小さな幼虫の写真を撮るのは、ちょっと難しい。しかし、教室で育った幼虫の成長履歴を残し、学習を振り返るには、写真を残すことは非常に有効である



これは一回脱皮して、少し休んだあと、葉を食べ出した幼虫である。子どもたちにとっては、幼虫が葉を食べる場面というのは初めて目にすることが多く、驚きを持って、じっと観察している。こういう場面での子どもたちの発する言葉が面白い。

「うわー、葉っぱ食べてるー！」「縦に食べてるよ」「おいしいのかな？」「目がおっきい！」「かわいい！」

給食の支度をしている時に、1匹の幼虫が孵化した。私は教室に顕微鏡を持ち込んで、生まれたばかりの幼虫を、子どもたちに観察させることにした。給食は少し待ってくれるが、幼虫の成長は待ってくれない。もちろん食事前に見たくない子どももいるので、自由に観察させることにした。



写真は、給食の配膳(お盆)をとりに行く列で、顕微鏡を覗いている子どもたちである。窓ぎわに置いたので、外光の反射光で、幼虫の細部まできれいに見えた。子どもたちは「うわー、トゲトゲがある！」「あー、動いてる！」「怪獣みたい！」と大興奮だった。

最後に、幼虫の顕微鏡立体視写真に挑戦してみた。顕微鏡で立体視写真を撮るには、ちょっとした工夫が必要だ。対物レンズをずらして撮影することはできないので、幼虫自体の角度(傾き)を変える必要がある。下の写真は、幼虫の載った葉を、1枚目と2枚目で少し傾斜を変えて撮った写真である。この幼虫は、ティッシュペーパーに落下したので、白い繊維が巻きついている。一応立体的に見える写真になった。

